

令和4年度地域学校協働本部事業

地域学校協働研修会（会津地区）

福島県教育委員会（会津教育事務所）

〈日 時〉 令和4年9月8日（木） 13:20～16:20

〈会 場〉 湯川村立湯川公民館

〈参加者〉 47名（地域学校協働本部関係者・児童クラブ関係者・学校支援関係者・学校関係者・行政関係等）

講話 「気になる子ども理解と対応について」

講師 福島県学校教育相談員 山本 和宏 氏

内容 「子どもとの関わり方の難しさ」は誰もが感じている永遠のテーマである。経験豊富な講師の先生から、子どもと接する上での効果的な対応のあり方や上手なほめ方・叱り方など具体的な事例があり、子どもとの関わりを持つための大切なヒントの提示があった。

- 座右の銘は「とにかく楽しく」～ 活動について理想を持って取り組むことが大切である～
- 子どもたちの一般的な傾向
 - ・ 忙しい(三無主義から四無主義へ・・・無気力・無責任・無関心+無感動)・睡眠相の未確立(昼夜逆転)
 - ・ コミュニケーション能力不足・自分勝手・言葉遣いの乱れ・遊びの変化(アウトドアからインドアへ)
- 集団生活を妨げる言葉～「気になる子ども」の具体的な言葉～
 - ・ 話の聞き方について・遊び(フリータイム)に関して
 - ・ いじめをする子のサイン・いじめられている子のサイン
- 効果的な対応のあり方～信頼関係の構築が大前提で、どんなに忙しくても子どもの話を聞く～
 - ・ 「常に子どもたちと共に」の姿勢～笑顔(明るく)で元気に～
 - ・ ダメはダメ(タイミングを見逃さない)～自分がされたら嫌なことはしない～
 - ・ 積極的に良さを認める～子どもを認める100の言葉～
 - ・ 男女を問わず公平・公正な対応
 - ・ 学校との連携を図る～情報交換の場を設定～
 - ・ 大切にさせたいこと(次代を担う子どもたちのために)
- 上手なほめ方・叱り方～3つ褒めて1つ叱れ～
- 子どもたちから慕われる、憧れの支援員・サポーターを目指して

【受講者の声】

- 具体的で体験的な話がとても面白く楽しく学ぶことができた。手品がとても上手でうらやましく思った。
- 子どもに関わることから逃げないでかばれるエネルギーをいただいた。
- 子どもたちの現状を踏まえ具体的な関わり方について、よく知ることができた。同じ方向を目指す場面、選択させる場面を意図的に仕組んでいきたい。とにかく楽しく。
- 現場で役に立つお話をたくさん聞いて、とても参考になった。五感をフルに使い、子どもたちに接したいと思う。
- 「上手なほめ方・叱り方」ぜひ実践していきたい。
- 子どもと関わるポイントを分かりやすく教えていただき、とても参考になった。



【山本 和宏 氏】

講話 「『社会に開かれた教育課程』の実現のためのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」

講師 ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋 宏之 氏

内容 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、学校・保護者・地域が課題を共有し、同じ思いを持ちながら生活していくことが重要である。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一体となり、それぞれがもつ役割が十分に機能し相乗効果を発揮していくことが大切である。

- 学校の抱える様々な課題
 - ・ コロナ禍の中の諸問題・新学習指導要領への対応・働き方改革・その他（課題が山積みかつ複雑化・困難化）
- 新学習指導要領から
 - ・ 児童(生徒)が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことが全ての大人に期待される役割である
 - ・ 「情報源」や「場や機会」、「仕組み」等が必要
- 「社会に開かれた教育課程」の基盤づくり
 - ・ 基盤づくりに必要なこと
 - ・ コミュニティ・スクールとは
 - ・ 地域学校協働活動とは
- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて
 - ・ CS活用した基盤づくり・共有できる目標・本宮まゆみ小学校の新たな教育目標と児童像の設定
- 「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話である
- 「社会に開かれた教育課程」実現に向けた新たなカリキュラム開発
- 今、地域連携を担う方々に期待されていること
- 自分たちが「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創って行かなければならない



【 安齋 宏之 氏】

【受講者の声】

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の大切さと、具体的なイメージをつかむことができた。
- 今年からCSがスタートしたばかりで、まだまだ不透明な部分、勉強不足のところが多々ある。「熟議」がよりよいものになるよう、今日の話を参考に取組んでいきたい。
- CSとの関係が悩みだったので、方向性が見えた。学校サイドにも受けてほしい内容であった。
- 早速、関わりのある学校の教育目標を確認する。また、学校の情報を発信していきたい。
- 学校は楽しいことが必須であり、自分で考え、判断し、行動できる子どもを地域と学校で支える取組が理解できた。
- 活動に一生懸命取り組んでいたが、目標の明確化が図られていなかったと反省した。同じ目標、同じ歩調で話し合いの場を設定できるよう考えていきたい。